

リスク・ヘッジ

【リスクヘッジ（危険回避）】

起こりうるリスク（危険）の程度を定性的かつ定量的に予測して、リスクに対応できる体制を取って備えること。もともと商品先物取引で使われた用語。

施術の際、患者さんを負傷させた。治療院の床が濡れていたために患者さんが転倒し怪我をした。備品を運んでいる時に患者さんにぶつかって怪我を負わせてしまった等、治療院運営にはさまざまなリスクが存在します。

アメリカは「訴訟社会」と言われていますが、グローバル化の進展に伴い、将来日本においても、似たような傾向になる可能性があります。

実際に患者さんの損害賠償請求に対する意識が高まりこれまでは謝罪すれば解決した事例でも、賠償にまで発展する可能性が出てきました。

当協会のDATAでもその傾向が出てきています。万が一に備えることはいまや現代社会の常識となっています。絶対、自分の治療院では事故が起きないと断言してしまってもよろしいのでしょうか。万一事故が起きてしまい、賠償問題に発展した場合、JHA日本治療協会が適切に対処させていただきますのでご加入をご検討下さい。

【患者さんの意識の向上】

現代の患者さんと治療家の先生との関係は、従来のただ先生のアドバイスに従うだけではなくなっています。治療家の先生は、サービスの供給者であり、患者さんは、サービスの受け手となります。

また、保険診療と比べて自費治療の場合、患者さんはより厳しい目で見る事も予想されます。

最近、新聞等に見られます医療過誤もそうですが、情報が増えている事も意識の向上につながっていますのでリスクに対するの準備が必要不可欠になります。

- ・ 平成11年度 訴件数 100 実事故 75%
- ・ 平成12年度 訴件数 150 実事故 70%
- ・ 平成13年度 訴件数 285 実事故 44%
- ・ 平成14年度 訴件数 350 実事故 52%
- ・ 平成15年度 訴件数 625 実事故 40%

訴件数（当協会の電話連絡数）は平成11年度を100とした場合の割合です。

（2005年JHA・DATAより）

【訴件数】

当会の会員数は増加していますので、事故件数（実事故）も増えてきていますが、訴件数（当協会への電話連絡数）はそれよりも格段な伸びとなっています。（2005年JHA・DATAより）電話連絡のみの集計になりますので、施術後の不調を感じている実態の数はもう少し多いと考えられます。

【実事故】

件数は増えてきています。患者側も情報の増加とともに技術的に求める欲求も高くなってきています。

事故の内訳を見た場合、頸椎捻挫・モミ返し（コリかえし）は事故全体のほぼ40%を占めています。

原因の特定がほぼ可能な骨折・亀裂骨折等のものが20%、のこる20%は不慣れた専門的・高度な技術により損傷を与えたものです。次に高齢患者に対する事故結果は骨折・骨のヒビ等です。年齢を考慮して施術を行なっている施術家も多いはずですが、予想した骨の強度がなく思わぬ損傷を与えてしまった事例も数多く見られます。

事故だと訴える患者が増えています。
高度な技術を要求され事故につながるとまた訴えられます。
リスク・ヘッジをお考えになりませんか。

リスクヘッジをとも考える JHA 日本治療協会

* 国家資格コース

JHAが認定する国家資格者による行為は1つの保障ですべてカバーします

* 民間資格コース

JHAが認定する民間資格者が加入できるコースがあります

* 個人の方でも加入できます。

* 入会金・年会費はありません。

※この保障はJHAの会員のみが加入できます。会員登録等に関するお問合せは下記へお願いします。

【ご不明な点・詳細につきましては、お気軽にお問い合わせください】

JHA 日本治療協会

TEL03(5289)8171 FAX03(5289)8173

受付時間：平日 10:00 ~ 18:00